奈良の未来担う若者に期待

コロナ禍を乗り越えて

政策提言特集　with コロナ時代の教育を考える

新型コロナウイルスによる感染症の発生から1年以上が経過し、教育現場にも大きな影響が出ています。「Think NARA」（代表＝山本憲宥・奈良市議会議員）はこうした状況下で、奈良の未来を担う若者たちの教育のあり方を考えるために設立されました。今回は、山本代表がかつて学んだ帝塚山大学を訪ね、同大学経済経営学部の熊谷礼子学部長と対談。コロナ禍を乗り越え、学生やその家族の安全・安心を確保しながら学びの機会を提供してきた同大学の取り組みや今後の教育のあり方、就職支援の方策などについて意見を交換しました。対談内容を紙面で紹介します。

オンラインを使った地域連携、産官学連携による商品開発の取り組み（帝塚山大学提供）

試行錯誤の大学「授業」

山本　本日はお忙しいところ、ありがとうございます。まず、コロナ禍で教育現場がどう変わったか、うかがいたいと思います。私自身、大学3年と大学2年の2人の子どもがいます。今年度の前期はオンライン授業がほとんどで、後期から対面授業とオンライン併用されました。通学せずに学べる利点はありましたが、やはりキャンパスライフを満喫できない寂しさが勝っているようでした。

熊谷　大学は専門の学びを提供するだけでなく、教員や学生たちとの交流を通じて成長していく場でもあるので、コロナ禍でキャンパスライフに大きな制限がかかったことはとても残念なことです。特に1年生は入学から普段の大学の雰囲気を味わうことなく、オンラインの授業となり、仲間づくりなど難しい面がありました。

帝塚山大学でも、学生自身や家族の方々の健康と安全を守ることを第一に、前期はインターネットを使ったオンライン授業による教育に取り組んできました。

後期からは、教室の人数制限などを行いながら対面授業とオンライン授業を組み合わせた「ハイブリッド」での教育を実践しました。

来年度は感染予防対策を強化しながら、学生たちがキャンパスライフも堪能できるように対面授業の全面再開を目指しています。

山本　小中高の学校では早期に対面授業が再開しましたが、大学などは通学圏が広く学生の行動範囲も多様なことから対面授業に制限がかかるのは仕方ない部分があります。

この1年でオンライン授業などIT（情報通信技術）の活用が急速に拡大しました。私たちの学生時代は大きな教室で講義を聞くスタイルでした。ITの導入で授業や学生にどのような変化がありましたか。

熊谷　帝塚山大学は1997年から教育支援のためのeラーニングシステムを独自に開発し、他大学に先駆けてITを活用した教育に取り組んだ素地がありました。現在の「TALES」(Tezukayama Active Learning Education Square) は2018年から運用され、パソコンやタブレット、スマートフォンからも利用できる授業支援システムを構築しています。このため、オンラインや動画を使った授業などスムーズに対応できたと思います。

オンライン授業を開始して2カ月ほど経過した昨年6月、後期授業が始まる直前の9月には、授業満足度調査を全学で実施しました。アンケート結果からは、自宅など落ち着いた環境で自分のペースで勉強できることに利点を見いだす学生が多い一方で、「授業の課題が多い」「一人で学ぶので不安」など自分で時間管理することの難しさも浮き彫りになりました。2度のアンケート結果を踏まえて、オンライン授業でも対面授業とそん色ない質の高い学びを学生に提供できるよう、本学ではこれまで以上に授業内容や学修環境の改善に取り組んできました。

本学は、これまでも大規模大学に比べて大教室で一方的に講義をするという授業は少なかったのですが、オンライン授業では個々の学生と教員との距離がより近くなり、学生も質問しやすくなったようで、対話している感覚が強くなりました。この感覚は今後の対面授業にも生かしていきたいものです。

また、オンライン化によって家庭でも授業の様子が見られるようになり、学生が何を学んでいるか家族も関心を持つ「家庭からの授業参観」という現象が起きました。これは教える側も学生側にも良い緊張感をもたらしたと思います。

山本　オープンキャンパスや留学生への対応はどうでしたか。

熊谷　オープンキャンパスについても高校生らが実際に大学を訪ったようです。IT環境の整備で国境を超えた学びができることを実感できました。

対談　帝塚山大学経済経営学部・熊谷礼子学部長　Think NARA 山本憲宥代表

安全と学びの機会確保

帝塚山大学経済経営学部学部長　熊谷　礼子氏

くまがい・れいこ　1969年４月生まれ。92年大阪大学経済学部卒業。同大学大学院経済学研究科博士後期課程中途退学。98年帝塚山大学に着任、2009年より教授。14年、経済学部長、18年から経済経営学部長。専門分野は産業組織論、組織の経済学。

「実学」から就職を支援

山本　「南都経済研究所」が県内の企業を対象に昨年の新卒採用の状況を調べたところ（回答・315社）、大学生などを正社員で採用したという回答は26・7％で前年から2・5ポイント減少、過去10年で2番目に低い水準にとどまったそうです。コロナ禍の影響による業績悪化が、正社員での採用を控える動きに直結したと考えられますが、就職支援や学生へのフォローはどのように取り組まれましたか。

熊谷　就職活動は企業説明会が中止や延期になり、面接もWEBを通じたものに変更されるなど、通常とは違う状況となりました。学生の就職を支援するキャリアセンターでは、個別相談などで学生の不安を取り除くとともに情報提供やオンライン面接練習なども行ってサポートしてきました。

WEB面接も条件はどの学生も同じですので前向きにとらえることも大切です。放送や出版など在京の企業にも時間や交通費の負担を心配することなく応募できたメリットもあります。やる気のある学生にとってはチャンスが広がったとも言えます。

山本　帝塚山大学は「実学」で地域社会・経済に貢献する人材を育成されています。私もかつて学んだ一人ですが、実社会で役立つ場面も多くありました。経済経営学部の特徴を教えてください。

熊谷　山本代表が在籍されていた当時の経済学部は改組され、経済経営学部が2018年からスタートしました。経済経営学部では、金融・不動産▽公務員▽国際観光ビジネス▽流通業界▽企業実務―の5つの「実学プログラム」を設定して、卒業後に希望の進路に進むことができるよう指導体制を組んでいます。社会で活躍する実務家や卒業生ら現場の声を聞ける実学講座やインターンシップなどが特徴です。今年度はコロナ禍で対面での取り組みに制約がありましたが、来年度からは本格的に再開します。ぜひ、山本代表にもご登壇いただければと思います。

また、この4月から、経済経営学部では新たに「データサイエンスベーシック（DSB）コース」が始まります。現代社会は、AI（人工知能）による自動運転技術や医療診断、ビッグデータを活用したコロナ対策など技術革新による新たな時代・社会に向けた人材育成が求められています。同コースでは、データの収集や分析、処理などのスキルを身につけ、それらを実際の社会やビジネスの現場でどのように活用できるのかを学び、必要単位の修得でコース修了も認定されます。今回のコロナ禍で一層進んだ社会のデジタル化に対応すると同時に、社会全体の課題をみつけ、解決策を導き出すことのできる人材を育成します。

地元で学び働く契機に

山本　私は昨年から関西大学大学院に社会人入学し、ガバナンス研究科で学びました。やはりオンラインからハイブリッド型授業となり、コロナ禍での教育現場の変革を身をもって体験し、その中でオンライン教育の可能性も大きく広がったように感じました。

奈良市では小中学生1人に1台のタブレット端末を配る「GIGAスクール構想」が始まっています。こうした子どもたちは、よりスムーズにITを活用した教育になじむことができると思います。さらに、私のような社会人の学び直しの可能性が広がるのではと思います。オンライン授業がそれを証明してくれました。大学により違いはありますが大学院の授業は、基本が6、7限でした。仕事を終えてから授業を受けます。さらにオンライン授業の併用が大きな可能性を感じさせてくれました。オンライン教育は多くの人への学びの機会の提供につながるでしょう。

これまで首都圏、京都や大阪の大学に通っていた人材が奈良で学び、奈良の地域社会・経済に貢献できるような政策提言ができればと考えています。

熊谷　オンライン授業によって、良質な学びの機会が時間や距離という壁を越えて提供できることが証明されました。一方、これをどう使うかによって格差を縮められるのか、拡大してしまうのかが変わってきます。効率的に学べるというメリットがありますが、自主性に任されている部分も大きく、格差が出やすくなってしまうというデメリットもあります。うまく使いこなすことができるよう促す工夫で格差が縮まればと思います。

学生たちはコロナ禍を経験することで自主的に学び、変化に対応する力を身につけました。これは社会人になってからも大きな武器になると考えます。また、コロナ禍によって起きた社会の大きな変革を見つめながら、経済や企業の動向により強い感心を持つようになっています。さらに観光など奈良に関わりの深い産業にも目を向けてもらえればと思います。

山本　学生たちがコロナ禍を乗り越えて新たな奈良の未来を創造してくれること期待しています。本日はありがとうございました。

可能性広がるオンライン

Think NARA代表　山本　憲宥氏

やまもと・かずひろ　1971年６月奈良市生まれ。帝塚山大学経済学部卒業。2021年３月、関西大学大学院　ガバナンス研究科修了、修士（政策学）。13年に奈良市議会議員選挙に初当選、現在２期目。特定非営利活動法人「なら燈花会の会」顧問、全日本少年硬式野球連盟奈良ヤング顧問、一般社団法人奈良青年会議所　第52代理事長（11年）。

感染防止対策のアクリル板を挟んで対談する山本代表（左）と熊谷学部長＝奈良市帝塚山の帝塚山大学

皆様のご意見をお寄せください

Think NARA(しぃんく・なら)代表　山本憲宥

奈良の未来を考えるために設立。すべての人に優しいまち、笑顔があふれる元気なまちを目指す「まちづくりの創造」、未来への適応力と自ら考え生き抜く力を育むための「教育環境のありかた」を考え、政策提言していく。

問い合わせは
奈良市西木辻町121の２の302
電話0742（26）2026
E-mail:yamamoto@office-ky.net